

おいでよ

こらぼ

平成30年

冬

教室・講座、やりたいことを実現！



特集 下町ボブスレー“大田区から世界に挑戦”

2-3p

地域力ここにありー地域に親しまれる商店街 大森町共栄会ー

4p

地域で進む連携と協働ー地域を越えた被災地支援活動ー

5p

こらぼ大森を使ってみました！ー呑川の会ー

6p

区民活動団体レベルアップ講座、園芸ボランティアの活動の報告

7p

こらぼ大森冬のイベントご案内

8p

特集

下町ボブスレー 大田区から世界に挑戦

平昌オリンピック(2月9日～25日)の開催が近づいてきました。大田区の町工場関係者が中心になって実現した「下町ボブスレー」チームの出場決定の朗報が待たれるところです。大田ブランド「下町ボブスレー」ネットワークプロジェクト推進委員会副委員長の舟久保利和様にお話を伺いました。

—平昌オリンピックがいよいよ2月から開催されます。区民の皆さんも「下町ボブスレー」の出場決定の朗報を今か今かと待っていることかと思います。この取り組みを続けてこられた今のお気持ちをお聞かせください。

舟久保：私たちは2011年に「下町ボブスレー」ネットワークプロジェクト推進委員会を作り本格的にボブスレー競技に関わるようになりました。そこから、私たち日本人の手で作ったボブスレーを使ってオリンピックに出場してもらおうという夢がスタートしました。2年前ジャマイカチームが使用を申し出てくれたことは本当にうれしかったです。今回はいい結果を期待しています。

—町工場を経営する立場からこのプロジェクトを進める動機はどんなところにあるのでしょうか。

舟久保：中小企業の場合は、大企業から図面が送られてきて、コストや納期をにらみながら…というふうに仕事を進めることが普通のスタイルなんです。自分たちが作っているモノがどこでどう使われるのか分からないことも多いんですね。仕事の関係で外部の方に



▲舟久保利和氏

見せられないことも少なくありません。でもこのプロジェクトは、初めの図面から自分たちで作り、できたものを皆さんに見てもらうことができる。しかも全体を自分たちで動かしているというところが何ととっても魅力ですね。メンバーは全員無報酬でやっているのですが、目の前のことだけでなくむしろその先を見ながら「俺がやるよ」と言いながら進めてきている。いい仲間に恵まれていると思います。

結果にこだわるがゆえに意見がぶつかる時も当然ありますけれども、同じ目標に向かって互いに発展しあえるような「利他的」な人間関係になっていることがうれしいですね。

以前日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟に採択をされなかったときは、とても残念でしたが、このメンバーだからこそ、そこで立ち止まらずすぐに皆で一丸となって前を向くことができました。



一昔から、大田区の町工場の中には「仲間回し」のネットワークがあったと聞いていますが、それが今回プロジェクトにも生かされているように感じます。

舟久保:以前から、「忙しいからちょっと手伝ってほしい」という「頼む頼まれる」業者どうしの連携や繋がりはありましたが、一方で仕事でつながりがないと近所であってもめったに顔を合わせないということがあります。その点、一つのプロジェクトをみんなでやり遂げるために「ここまではやってほしい」と思いをぶつけあい、時には摩擦も乗り越えながら進めてきた今回のプロジェクトからは、同じ目標に向かって進むいわば同志の関係が生まれてきました。メンバーの信頼が深まり、それがさらに互いの企業同士の結びつきにもつながってきています。

一まさに大田区の町工場ならではの取り組みですね。ところで、日本のモノ作りを支えてきた大田区の町工場ですが、このプロジェクトの社会的影響という点ではいかがでしょうか。

舟久保:1983年には9000社近くあった大田区内の中小の町工場は、直近データでは3000社台前半の統計がでていますが、この

取り組みを通じて様々な形で区内の工業や地域の活性化にも貢献できればと考えています。

—舟久保さんご自身も町工場の若手経営者としてご活躍中でいらっしゃいますが、年頭にあたり、特に若い世代にメッセージをお願いいたします。

舟久保:日本を含めた世界の経済や社会が目まぐるしく移り変わっていく中で、人間も組織も生き抜くためには、変化し続けることが必要だと思います。そのために、多くの人間関係を作り、多くの経験をして、多くのことを吸収し、自らを謙虚に省みながら良いところは伸ばし、悪いところは変え、常に成長し、結果として幸せな人生を歩んでいってほしいと思います。

注:本誌発行時点では、ジャマイカチームの冬期オリンピック出場は決定しておりません。

舟久保利和氏:

株式会社昭和製作所代表取締役社長

「下町ボブスレー」ネットワークプロジェクト
推進委員会副委員長

聞き手:編集部



地域力ここにあり 地域に親しまれる商店街 大森町共栄会



大森町共栄会 会長 高橋 正吉

大森町共栄会は、京浜急行大森町駅と東邦医大通りの間、約1 Kmの商店街です。飲食店から八百屋さんや生活雑貨のお店などいろいろな商店が軒を連ねて、生活に必要なものは大概の物がそろいます。平成24年には京浜急行の高架工事が完了し、京急大森町駅の利用や周辺の通行も便利になり、それに伴って商店街をご利用される方も増えてきました。

そのような地域の変化に対応して、当商店街として特に力を入れて取り組んできたことの一つは、皆さんが安心して楽しくご利用いただける環境づくりです。そのために省エネにも配慮しながら、商店街を明るく照らし出すLED照明を平成29年3月に設置しました。これは皆さんに大変ご好評をいただいております。



▲サマーフェスティバル

大森町共栄会として大事にしてきたことは、イベントを通じて商店街全体を活性化させるということです。イベントを通じて地域の皆さんにより商店街に親しみを感じていただき、また各店舗にとってもお客さんとの繋がりが生まれればと考えています。

大きなイベントとしては、7月のサマーフェスティバルと12月のウィンターフェスティバルがあります。サマーフェスティバルには近隣の3つの神社がお神輿を出して下さったり、くすのき連や地元の踊り手の方も多数参加して下さって大変盛り上がります。共栄会のキャラクター「もりもちゃん」のぬいぐるみも大好評です。昨年開催された「第1回ふるさとの浜辺祭り」にもキャラクターの一つとして参加させていただきました。



▲共栄会の公認キャラクターもりもちゃん

ウィンターフェスティバルは、商店街の端から5つのポイントを設け、そこを中心としながらサンタクロースが子どもたちにプレゼントを配ります。これも商店街全体の活性化を考えながらいろいろ工夫を重ねてきました。

これからも、地域の皆さんに安心してご利用いただける身近な商店街を目指して頑張りたいと思います。

地域ですすむ 連携と協働

～地域を越えた被災地支援活動～

2011年の東日本大震災発災後、まもなくして発足した大田区被災地支援調整センターは、地域の民間の力を結集し、その後の被災地支援を大きく推進させました。その集まった地域の若手メンバー達の声かけに応じたメンバーが中心となり、東北産業復興応援ボランティアチーム“くう～の東北”として活動をはじめました。メンバーたちは被災地現場での泥掻きのような現地での支援活動の他にも、地域経済を応援する活動も復興支援のひとつとして捉え、東北の物産の販売を行ってきました。この活動は、被災地支援への思いはあっても現地訪問までは体力や時間の余力のない人たちのボランティア活動の受け皿ともなりました。現在は、Facebookで連絡を取り合い、新しく参加するボランティアも随時募集をしています。（Facebook検索で、東京で出来る被災地ボランティア『くう～の東北』でヒットします。）



くう～の東北で取り扱う商品は、有志のメンバーが現地を訪問し、味を十分に吟味した「これは美味しい」と思えるご当地産物です。たとえば、東松島の食肉会社のオイタミートが扱う牛たんカレーは、お手頃価格で今も店頭での人気商品のひとつとなっています。商品として価値のある産物を正當に評価し、地元大田区の人たちに食べてもらうことで応援する姿勢がそのような所に現れています。

くう～の東北の活動より



出展する場所は、本門寺山門での池上朝市をはじめ、地域の様々なお祭りやイベントです。こらば大森夏まつりにも毎年出展をし、最近では福島で有機栽培に取り組む農家の大河原さんをゲストとして呼びし、コーディネートも担当いただいています。



これからも援農活動や、買い物バスツアーなど直接現地を訪ねる活動を行い、将来構想として大田区内での定期的な野菜販売を模索していくなど、より積極的に交流企画を実施することも検討しているようです。地域を越えた支援活動や交流がこれからも続くことを期待して、くう～の東北の活動に注目していきたいと思います。

こらぼ大森を使ってみました!

呑川の会は、こらぼ大森の開設以来、こらぼ大森を拠点のひとつにして長くご利用いただいています。今回は、呑川の会の活動をご紹介しますながら、こらぼ大森の活用方法についてお伝えします。

呑川の会は、大田区を北西から南東に横切って流れている呑川の自然環境を重んじて、呑川周辺の日常の観察やウォーキングなどを通じて区民に広く呑川の魅力を伝え、環境についての啓発活動をしています。現在会員は 70 名ほどいらっしゃいます。

こらぼ大森は、活動拠点の一つとして以前からご利用されており、年に 5 回発行する会報の印刷や発送作業は 2 階にある**ワーキングルーム**を使って行っています。



作業後に訪ねる喫茶**おおたオーガニックファーム**（情報交流室Ⅱ）での語らいは、メンバーの交流と憩いの場になっています。

最近は活動がますます活発になり、お貸ししている**倉庫**のスペースは、会のパネルやイベントアイテムでいっぱいだそうです。

「場所は少し遠いですが、こらぼ大森は私たちの会にとって頼もしい施設です」とのご感想もいただきました。また、ご利用されている立場から改善のご提案もいただきました。今後の施設運営の参考とさせていただきます。

（取材協力：呑川の会 世話人 菊池均様）

※ ワーキングルーム：リソグラフ印刷（原版1枚30円 / 印刷10枚10円）や紙折り機（無料）があります。予約は特に必要ありませんが、他のご利用があった際は、場所などを共有しながらお使いいただくことになります。

※ おおたオーガニックファーム：10時から16時までご利用いただける喫茶スペースです。コーヒーやハーブティーなどお楽しみいただけます。予約制でケーキもご準備できます。ミニイベントも開催しています。区民の皆様の交流の場です。

※ 倉庫：こらぼ大森をご利用いただく団体に年度単位で1年毎にお貸出しています。毎年2月頃に新年度の利用団体募集が始まります。

詳しくはこらぼ大森（電話 03 - 5753 - 6560）までお問合せ下さい。

こらぼ大森活動の報告

「区民活動団体レベルアップ講座」実施

活動歴の長短を問わず多くの区民活動団体から、活動の仲間づくりについてご相談をいただくことがあります。そのような声にお応えし、大田NPO活動団体交流会、おおた区民活動団体連絡会の企画協力のもと講座を実施しました。（実施日：12月5日、会場：大田区立消費者生活センター）



第2部のワークショップでは、参加者同士により共有された悩みについて、参加者同士がお互いにアドバイスしあう場となりました。各グループからの感想発表では、「パネル登壇者をはじめ、意欲的に活動している皆さんからたくさんのことを学びました」という声も聞かれました。



第1部のパネルディスカッションでは、異なる活動分野の4団体をお招きし、活動の広がり状況とそのコツについてお話をいただきました。近況の活動報告からは、その広がりへの驚きの声があがりました。そして、そのコツとして新しいボランティア希望者が関わりやすい環境づくり、参加対象を明確にした広報、そして地域の社会資源を活用する取り組みなどエピソードを交えた秘訣のお話がありました。

＜パネルディスカッション＞

・ご登壇いただいた団体

一般社団法人木谷ウォーキング研究所

英会話同好会FROMOTA

（略称EDO会）

NPO法人読み聞かせネットワークヒッポ

NPO法人ユースコミュニティ

ご協力ありがとうございました。

園芸ボランティア活動による菊づくり活動

NPO 法人大田教育支援の会とこらぼ大森園芸ボランティアさんのご協力により、今年もこらぼ大森の玄関にきれいな菊を飾ることが出来ました。

園芸ボランティア活動では菊づくり以外の活動も行っています。ご関心ある方は2階の情報交流室までお声掛けください。



こらぼ大森 冬のイベントご案内

こらぼ de アート こらぼ大森がアートでいっぱい アートでつながる人・地域・こらぼ

- 日時 3月15日(木)、16日(金)、17日(土) 午前10時～16時
 - 場所 こらぼ大森 多目的室、軽食コーナー
 - 展示 絵画、イラスト、手芸作品、絵手紙、折り紙、写真、書etc
こらぼ大森ご利用者の皆さんや地域の皆さんと子どもたちの作品を展示します。
作品募集中です。(応募締め切り2月末日)
詳しくはこらぼ大森HPまたはこらぼdeアートのご案内チラシをご覧ください。
 - 特別講座 3月17日(土) 多目的室 13時30分～15時30分
【おやこ工作・実験教室】 身近な道具を使って楽しい作品を作ってみよう
指導：NPO法人大田教育支援の会
定員：20人 持ち物・参加費：下記までお問い合わせください。
-
- 主催 こらぼ大森情報交流室 I
 - 問合せ 電話・FAX:03-5753-6560 E-mail: cbc10286@nifty.com

大森アートフェスタ 2018 ワークショップ まちでアートに出会う3週間

3/3(土)～3/25(日)は気軽に近くでアートに触れ合えるイベントで大森を盛り上げます。
こらぼ大森では下記のワークショップを行います。初めての方も安心してご参加ください。

- 日時 3月4日(日) 13:00～16:00 コラージュ de アート
3月5日(月) 14:30～15:30 つくってみようかいてみよう
3月9、16日(金) 10:00～12:30 ビーズアクセサリー
3月13日(火) 13:30～15:30 塗り絵から始める色鉛筆
3月18日(日) 10:00～12:00 わたしとAIで曲をつくろう!
3月20日(火) 10:00～12:00 ソープカービング
- 場所 こらぼ大森 2階 情報交流室 II おおたオーガニックファーム
- 持ち物・参加費 下記までお問い合わせください。
- 主催 情報交流室 II おおたオーガニックファーム
- 問合せ 電話・FAX:03-3763-7314 月～金10:00～16:00
E-mail: office@ota-organic-farm.com



編集部より

季刊誌「おいでよこらぼ」をご覧いただき誠にありがとうございます。
本誌についてご意見・ご感想を下記のFAX 又はメールでお寄せ下さい。

- ①お住いの地域〈大森等〉、②性別、③年代〈50代等〉
をお書きください。

あて先：こらぼ大森情報交流室 I

- ・FAX 03 - 5753 - 6560
- ・メールアドレス cbc10286@nifty.com



MAP



発行者 齋藤十四男

発行日：2018年1月1日

大田区区民活動支援施設大森 こらぼ大森

住所：〒143-0015 大田区大森西 2-16-2

電話：03-5753-6616

URL：http://collabo-ohmori.com/



QRコード